

9/1
募集開始

2022(令和4)年度

博士号

取得支援事業

生涯学習開発財団は、「人間は感動する心を失わず、何ごとかを学び続ける限り、年齢にとらわれない生き方をすることができる」という理念のもと1983年に設立されました。

平均寿命が延びる今、定年後も学習を継続し、社会へ貢献し続ける中高年の存在は、日本社会にとって大きな支えとなります。

財団では、現在博士号の取得を目指す50歳以上の方々を対象に、2011年度から支援事業を行っております。この取り組みを通して、来るべき高齢化社会の生涯学習を促進し、よりよい社会作りに貢献することをめざしています。

本事業は、国籍や性別を問わず、また、研究領域は文系・理系を問いません。独創的で社会的な意義のある研究を行い、博士論文を執筆中あるいは提出が予定されているすべての方に門戸は開かれています。皆様からの積極的なご応募をお待ちしております。

■ 採用予定人数

特に人数は定めません。

■ 助成金の支給

- ・支給金額は一人あたり50万円
- ・支給日は2023年3月(予定)

■ 応募資格

以下の条件を満たす者

- ・50歳以上(性別、国籍、所属を問わない)
- ・日本国内に在住している者
- ・博士課程(博士後期課程を含む)に在籍するか、論文博士号の取得をめざし、かつ実行性の高い研究計画書を作成した者、もしくは博士論文の一部をすでに作成した者
- ・日本国内の大学で博士号を取得予定の者

- ・当財団のホームページ及び情報誌にて、氏名・年齢・写真・研究タイトル・論文要旨の公開を了承する者

■ 応募方法

(1) 提出書類

- ・指定申請書
- ・身元証明書
- ・研究計画書
- ・推薦書 ほか

詳細は募集要項でご確認ください

(2) 応募締切日

2022年12月9日(金) 必着

■ 選考

提出書類および面接により選考

お問合せと募集要項の請求は下記まで



一般財団法人 生涯学習開発財団 事務局

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-1-20 虎ノ門実業会館8階 TEL 03-3508-4551

募集要項・申請書は <http://www.gllc.or.jp> E-mail hakushi@gllc.or.jp

生涯学習開発財団 2022(令和4)年度 博士号取得支援事業 【募集要項】

■採用予定人数

特に人数は定めません。

■助成金の支給

- ・支給金額は1人あたり50万円
- ・支給日は2023年3月(予定)
- ・下記の項目にあてはまる事態が生じた場合、助成の取り消しをします。
 - ①申込書に虚偽の内容が記載されていることが判明した場合。
 - ②対象者から活動状況の報告がなく、あるいはその内容が不適切と判断される場合。
 - ③その他、当財団との信頼関係を著しく損ねる行為があった場合。

■応募資格

以下の条件を満たす者

- ・50歳以上(性別、国籍、所属を問わない)
- ・日本国内に在住している者
- ・博士課程(博士後期課程を含む)に在籍するか、論文博士号の取得をめざし、かつ実行性の高い研究計画書を作成した者もしくは博士論文の一部をすでに作成した者
- ・日本国内の大学で博士号を取得予定の者
- ・当財団のホームページ及び情報誌にて、氏名・年齢・写真・研究タイトル・論文要旨の公開を了承する者
- ・選考決定証授与式(2023年3月に財団にて開催予定)に出席できる者

■応募方法

・提出書類

- ①指定申請書(Wordファイルあり)
※財団webサイトよりダウンロード可能
 - ②身元証明書(在学証明書、住民票、外国人登録済み証明書など)
 - ③研究計画書(①とは別に必要です。ただし特定の書式はありません)
 - ④学業成績証明書(直近のもの。ただし、博士課程に在籍する者のみ)
 - ⑤完成した論文のコピー(部分可。ただし、博士課程に在籍せず、論文博士を目指す者のみ)
 - ⑥指導教授の推薦書(博士課程に在籍する者)
 - ⑦論文指導をする者(論文提出先の者が望ましい)の推薦書
- (注) 博士課程に在籍中の応募者は①②③④⑥を、博士論文を執筆中の応募者は①②③⑤⑦の提出をお願いします。なお、⑤は任意提出

・応募締切日

2022年12月9日(金) 必着

■選考

- ・提出書類および面接により選考を行います。
- ・書類選考の上、面接を行う予定ですが、面接の日程など詳細については対象の方のみ、申請書にご記入いただいたメールアドレスにメールするか、あるいはご記入の住所に送付します。
- ・合否の最終通知は本人の住所宛に送付します。

直前にマスクを外し短時間で撮影しています。



2021（令和3年度） 50歳以上「博士号取得支援事業」 選考決定証授与式

2021（令和3年度）

50歳以上「博士号取得支援事業」



冒頭で理事長・横川浩からご挨拶。

2021年度・博士号取得支援事業合格者の選考決定証授与式が、2022年3月15日、東京・虎ノ門の生涯学習開発財団事務所にて行われた。

本支援事業は、前財団理事長の松田妙子が、60代半ばから研究と論文執筆を開始し、71歳で東京大学博士号（工学）を取得したのをロールモデルとして、2011年度から開始されたもの。

財団理事長・横川浩は「生涯学習も、山の頂はより高く、裾野はより広くであるべき。みなさんは各分野で高みを目指す方々、ぜひ後に続く人たちのお手本になってください」と激励した。

●合格者と研究テーマ

秋山訓子（53歳）

「市民のための政策実現に向けて」
「政治主導下の政治過程の考察」

五十嵐浩司（61歳）

「機械学習活用による」
「付着塩分量推定の効率化に関する検討」

金丸雄一（51歳）

「環境変動による磯根資源への影響と」
「アマ（海士・海女）の適応」

栗山祐子（53歳）

「戦後ドイツのエネルギー政策の」
「政策合意形成過程分析」

鞠子和子（73歳）

「Catholicism, Policy of Toleration, and Essex in」
「Shakespeare's Plays and Poems」
「カトリック教、宗教寛容政策とエセックス伯」
「シェイクスピアの劇と詩における」

皆川晶子（51歳）

「海流発電による再生可能エネルギーの実用化に」
「向けた複数の垂直軸型回転装置周りの流れと動特性に関する数値的研究」

（五十音順、年齢は授与式当日）

2021●「博士号取得支援事業」 選考決定証授与式

選考の言葉

選考委員長 張 競

明治大学教授／博士(学術)



本財団の博士号取得支援事業第12回の募集は昨年の12月10日に締め切られ、57名の応募がありました。一次選考では14名の候補者が選び出され、2月15日、第一次合格者の面接が対面とオンラインの同時併用で行われました。最終選考の結果、6名の合格が決定されました。

3月15日、財団において授与式が行われ、横川浩理事長から出席した合格者の一人一人に授与証書と目録が手渡されました。

振り返れば、新型コロナウイルスのデルタ株とオミクロン株の感染流行に振り回された一年でした。厳しい状況のなかでも、資料やデータの収集、現地調査や実験などの研究活動に励み、博士号の取得を目指している応募者の姿に、横川浩理事長をはじめ、選考委員一同は深く感銘を受けました。

今年も理系、文系ともに多数の優秀な応募者がいました。採用枠に制限があり、最終合格者を絞らざるをえません。選考委員にとっては例年以上に難しい判断でしたが、惜しくも選に漏れた方は来年以降も応募するようお願いしています。

めでたく採用された方々はこの機会を大切に、博士号の取得を目指していつそう精進していただきたいと思います。そして、学位取得後も新しい目標を目指して生涯学習を続けてください。

皆様のご活躍を支援し、生涯学習を一層推進するために、選考委員一同は皆さんとともに、本事業のますますの発展のために微力を尽くしたいと思います。
今後ともよろしく願います。



一人ひとりに選考決定証と
助成金の目録が授与された。



今年もハイレベルな応募者の中から
選ばれた支援合格者の方々。



コロナ対策のため短時間だったが、
自己紹介と交流が行われた。「とても
励みになった」「異分野の研究者
と話ができたことがうれしい」と感
想を述べる方が多くいた。